

議会報告会実施報告書

開催日時	平成 30 年 5 月 20 日 14 : 00 ~ 15 : 30	開催会場	下恵土地区センター
出席議員	川上文浩、勝野正規、中村 悟、山田喜弘、川合敏己 野呂和久、澤野 伸、出口忠雄、渡辺仁美、大平伸二		
班長	川合 敏己		
参加者数	17 名		
実施内容	平成 30 年度 3 月定例会（予算議会）の報告 議員の定数と報酬の検討の経過報告		
質疑および 主な意見等	<p>< 1 グループ > 報告者 <u>澤野 伸</u> 記録者 <u>渡辺 仁美</u> <u>テーマ</u> 「議員の定数と報酬について」</p> <p>1) 報酬もさることながら、議員の経費、年金、社会保険や退職金などの仕組みはどのようになっているのか。</p> <p>2) 報酬については、市税収入とのバランスや他市との比較が必要である。</p> <p>3) 兼職している議員は報酬を減らし、これ一本でやっている議員はもう少し増やしてもいいと思う。</p> <p>4) 民間企業であれば、成果がないと給与に反映されない。議員の場合は、市民生活がこれだけよくなったよという実感を与えてほしい。</p> <p>5) 市の財政指数からみて、議会費が一般会計に占める割合からも判断したい。</p> <p>『総務企画委員会所管分』 「猫条例について」 ・ 可児市猫条例の制定を要望する。（別添資料あり） 「ふるさと納税について」 ・ ふるさと納税は、その分経費かかって赤字ではないか</p> <p>『建設市民委員会所管分』 「踏切について」 ・ JR 太多線踏切の拡幅を JR に求めている。議会も一緒に考えてほしい。 「生活道路について」 ・ 可児駅前広場への西からのアプローチが踏切の関係でやや不便である。 「駅前広場賑わい空間について」 ・ 可児駅前空間に賑わいをもたらすためには、村木あたりまでエリアを拡げた取り組みが必要と考える。</p> <p>『教育福祉委員会所管分』 「ボランティアについて」 ・ ボランティア人材の育成を進めてほしい。</p>		

『その他』

・マーノの館内レストランでコーヒーが出てくるのに時間がかかったと聞く

< 2グループ > 報告者 野呂 和久 記録者 大平 伸二

テーマ 「議員の定数と報酬について」

- * 定数、報酬も現在でよいのではないか。定数を減らすことは多様な市民の意見が届かなくなる。(下恵土、男性)
- * 定数については現行の22名より増やしてもいいのではないか、もっと市民の意見が行政に届くのではないか。(川合、男性)
- * 報酬については活動に見合う報酬で良いのではないか、また、政務活動費が月額2万円と聞くが少ないのではないか？政治活動に見合う活動費は認めてもよいと思う。(下恵土、男性)
- * 自治連合会の要望書がどのような経緯で出されたか地域によっては伝わっていないのでコメントは控えます。(川合、男性)

『総務企画委員会所管分』

「岐阜医療科学大学について」

質)岐阜医療科学大学への債務負担行為18億円は名城大学誘致の時よりずいぶん高額だがなぜか？

答) 昨年の12月始めに大学側から可児キャンパスの事業計画と事業資金計画をききました。そのなかで可児キャンパスは既存の看護学部と新設の薬学部を計画していると説明がありました。薬学部は県内で1大学しかなく現在、薬剤師不足の情勢のなか尾張地区や県内の薬剤師希望者の受け皿と考えている、しかしながら医療系の学部は多額の投資が必要であるために今回支援をお願いした旨を説明受けました。なぜ高額な投資が必要か議会も質問をしました。大学側から説明で国(文科省)の薬学部新設にむけて様々な条件があり、たとえば薬学部専用校舎の新設や必要な医療機器などを整備する必要があるためと開設後大学側(看護科、薬学部)と積極的に可児市に協力参加していく考えがあると説明を受け、議会は可児市、市民と地域医療の為になると判断して最高18億円までの負担行為を賛成多数で議決しました。

質)薬学部新設に向けて今年度申請見送りは大学側に申請条件を満たしていない為、申請ができず31年度の薬学部は開校できないと報道されたが、議会は早い段階で申請状況を把握できなかったのか？今後、どの様になるか？

答) 昨年12月の大学側説明で薬学部申請は順調に進んでいる。31年度予定している薬学部、看護科とも開校が出来るとの報告を受けていた。今回の申請条件を満たしていないことで今年度の申請を見送る話は、申請出来ないとわかった時点で大学側報告がなく把握が遅れました。大学側から5

月初めに今回の経緯と謝罪の受け今後の方針(看護科は予定通りで薬学部は32年度開校を目指す)も聞きましたが、まだ、今の段階で可児市として今後どの様にするかは決まっていないのでお答えできません。

『建設市民委員会所管分』

「東美濃ナンバーについて」

質)「東美濃」の名称と車のナンバー協議はどこから出始めたのか？

答)まず、皆さんもご存じの朝ドラ「半分、青い」で、可児市を含め東濃6市町をドラマのなかで仮称地区名で東美濃と使われることで、全国的にPRして行こうという流れから地元経済界や観光関係からでてきた話です。ナンバーについては該当地区の皆さんになぜ「東美濃」の地名にしたか、また「東美濃」地名のいわれを伝える前にナンバー協議だけが先走りしています。「東美濃」の歴史的いわれについては本日は時間がございませんのでお伝えできませんが可児市のホームページ等でも随時紹介していくと思います。

「自治会組織について」

質)自治会の加入者が高齢1人暮らしになり活動に参加できないため退会したい、また自治会加入のメリットがないなどで自治会加入者が減少しているが、市内各自治会は減少傾向かどうか？自治会は住民自治のためにも必要な組織と考えるが、議会、行政は自治会組織の維持のためにどのような考えと取り組んでいるか？

答)全市的に減少傾向ではあります。特に蘇南中校区(下恵土、土田、今渡、川合地区)が市内のなかでも自治会加入率が低いところです。自治会組織は地域、住民自治の為にも重要な要的組織と認識しています。取り組みは市役所窓口、各連絡所窓口などでも案内はしていますが、強制加入ではないため中々加入率が上がらないところです。自治会組織は重要な組織ですのでしっかりと取り組んでいきます。

『その他』

【まとめ】第1部では「岐阜医療科学大学」の問題や「東美濃」の地名問題は市民の関心が高く機会がある時に丁寧に説明を重ねていく必要と感じた。第2部では定数、報酬については市民は概ね理解して頂いていると思われたが、今回の開催地区以外にも丁寧に進めれば理解を得られるのではないかと思われる。

<3グループ> 報告者 中村 悟 記録者 山田 喜弘

テーマ 「議員の定数と報酬について」

・定数についてきちんとした根拠となるものを、一般学識経験者を活用し規則を作ってやるべきである。そうすれば毎回毎回このような議論をする必要はない。

- ・定数についてもやたら多くてもいけないが、そこそこの線を決めてやってもらえばいい。
- ・定数についても固定せず、流動的にして特別なことがある場合に人数もいるだろうから増やしてもいいし、何も無い時には減らしてもいいのでは。
- ・議会活動に対してやる気になるような過酷な課題を与えてはどうか。仕事をもってやってもらえば報酬を上げるべきだと思う。
- ・他市と比較する必要はない。可児市のために一生懸命働かれる人数がどれくらいいるのか。報酬も同じで可児市のために一生懸命にやってもらうならもっと多くても良い。
- ・報酬が少ないから成り手がなければ、可児市の政策の低下につながる。
- ・可児市のために一生懸命働いて評価されるようなら、人数が足りなければ増やしてもいいし、報酬も上げて良い。ただし、市民が見たときに議員があんまり働いていないと見えれば、報酬が高いとかの意見が出てくる。
- ・名古屋市長のように一律カットするには反対。やったらやった分だけ支払うべき。
- ・議員の稼働日数を聞きたい。
時間数として、議長は月約170時間、一般議員は月105時間。
- ・議長はどうして多いのか。
さまざまな報告を受けたり他の議会（組合議会）への出席などがある。
- ・公用車を使えるのは議長だけか。それも報酬との兼ね合いで考えてもいいのでは。
議長車は有る。議長だけでない。
- ・仕事の中身について。
決められた委員会等は当然出席する。しかし、議員活動の時間は評価が難しいが、それを求める市民もいる。
今回の説明があったとおり1年間の活動記録がある。どのような会議にどれだけ出席したか資料がある。議長、副議長、委員長など役職者は時間がある。

『総務企画委員会所管分』

「財政について」

- ・民生費が今後とも増えていくと思うが、それに伴い何が減っていくのか。土木費や教育費が減っていくと思う。
- ・地方交付税の推移はどうか。減っていくのではないか。
- ・税の徴収率や財政健全化はどうか。
良好であり市民一人当たりの借入金が少ない。徴収率は県下で上位にある。

「まちづくりについて」

- ・まちづくりのランドデザインとして議会としての議論はどうか。
総合計画や都市計画マスタープランを踏まえたなかで議論している。
- ・今渡・土田・川合に人口が増加しているはいいことだが、住み続けてもらうにはどうするのか。

企業誘致に取り組み成果を上げつつある。教育にも予算をかけている。

- ・ 今広は高齢者が多い。駅前に子育て拠点施設ができたが、住民として何ができるのか。また、人が大勢くるからといわれても関係がないと思っている。今渡・土田・川合など人口が増えているが、人口の移動を踏まえまちづくりを考えてもらいたい。

「岐阜医療科学大学について」

- ・ 岐阜医療科学大学開設支援事業はどうか。
建設費などの補助金で一回限りである。

『建設市民委員会所管分』

「空き家について」

- ・ 程度の良い空き家を市が購入しリフォームして、所得制限のもと子育て世代に格安で賃貸、売却してはどうか。そうして可児市に来てもらうのはどうか。

現在可児市にそういう制度はない。

- ・ 岐阜医療科学大学進出に伴い空き家を活用してはとの意見も聞くが、そういうところには若い人が来ないのが現状である。

「自治会について」

- ・ 自治会脱会者がこの2、3年かなり増えている。ごみ処理や街路灯の恩恵は受けるが加入しない。75歳以上は役を免除しているが、そういう人がずっと残り若い人が入ってこない。自治会の意味が薄れてくる。自治会の意味を考え直さないと自治会が無くなりかねない。

『教育福祉委員会所管分』

- ・ 子育て支援拠点運営事業は毎年いるのか。
ランニングコストである。

- ・ 可児市に直接収入となるものがあるのか。

無い。在校生や卒業生が可児市に住んでもらう場合など間接的な経済効果がある。

- ・ その為の活動をしているのか。

今後順次行っていく。

「教育について」

- ・ 可児市の独自の取り組みは何か。

いじめ条例を先進的に制定し、尾木直樹氏に特別顧問に就任してもらうなどいじめ防止に積極的に取り組んでいる。スクールローヤーを使い学校を支援している。また、キッズクラブ運営費に2億5千万円を使い、一人5千円で預かっている。義務教育まで窓口負担がない。

「国民健康保険について」

- ・ 予算が減っている理由は

景気回復に伴い被用者保険への加入や後期高齢者医療に移行するなど被保険者が減っているため。

『予算決算委員会』

「予算について」

- ・執行部に対し提言を行っているのか。
毎年9月議会に来年度予算編成に向け、決算審査を踏まえ提言を行っている。その結果は7頁の通りである。

< 4グループ > 報告者 川合 敏己 記録者 出口 忠雄

テーマ「議員の定数と報酬について」

- ・定数について>特に意見無し。
- ・報酬について>可児市は少ないと思う。

『総務企画委員会所管分』

「災害放送について」

- >FMらら・ケーブルテレビだけでは、市民に伝わりにくいのではないか。

『建設市民委員会所管分』

「自治会組織について」

- >自治会加入率の低下が深刻だ、加入率を上げる知恵のアドバイスを頂きたい、行政支援で対策できないか。

『教育福祉委員会所管分』

「ガン予防について」

- >過日「ガンにならないテレビ放送」をみでの意見。
肝炎血液検査でガン化の予測ができ早期治療に取り組める、結果的にガン抑制につながる。可児市も検討してはどうか。

平成 30年 5月 31日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 下恵土地区センター会場 班長 川合 敏己